

2026年度改定で年間11億円増収見通し、南須原・北大病院長 ◆Vol.2

がん・医歯連携・移植の「3本柱」の強化に追い風

スペシャル企画 2026年3月18日(水)配信 聞き手・まとめ：橋本佳子（m3.com編集長）

前の記事

次の記事

01 外科医の処遇改善「新加算」、北大病院が算定へ ◆Vol.1

03 外科医個人へのインセンティブ「画期的」、武富・北大教授 ◆Vol.3

北海道大学病院長を務める南須原康行氏は、2025年4月に就任以降、「がん診療、医科・歯科連携、移植医療」の3本柱を中心に、病院のブランディングと経営改善に取り組んできた。それでもなお、物価高騰や人件費の増大、老朽化した医療機器・施設の維持管理費が重くのしかかり、依然として楽観できない状況が続いている。

こうした中で迎えた2026年度診療報酬改定により、特定機能病院への手厚い配分や、ロボット支援手術・臓器移植への加算新設により、年間10億～11億円規模の増収が見込まれるという。南須原病院長に今改定の受け止め、影響などをお聞きした（2026年3月4日にインタビュー）。

2025年4月に病院長就任、病床稼働率など改善傾向

——先生が病院長に就任されたのは2025年4月です。本当に経営が厳しい状況下からのスタートだったと思いますが、病床稼働率をはじめ、各種指標は改善傾向にあります。

確かに、周囲から「よく大変な時期に病院長を引き受けましたね」と言われました。病床稼働率ですが、私が病院長に就任する前の2024年12月から病床を928床から894床に減らし、病院全体で病床稼働率を上げる努力をした結果、病床稼働率は2023年度78.9%（病床再編後ベースで補正86.8%）、2024年度81.7%（同87.8%）から、2026年1月には90.9%にまで増加しています。

各種指標の改善は、手術枠の拡大や、年3回休日を診療日に充てるなど、様々な取り組みを実施した結果です。ただし、入退院に伴う様々な手続きや対応など、現場の負担が増加しているのも事実です。



ロボット手術や臓器移植の赤字解消へ期待感

——2026年度改定について、2025年12月の国立大学病院長会議の会見では、当初想定の「1%と2%の間」を超えたのはうれしいものの、大学病院の要望である11%よりは少ないという趣旨の発言をされていました（『国立大病院長も「驚き」「安心」「延命できる』』を参照）。

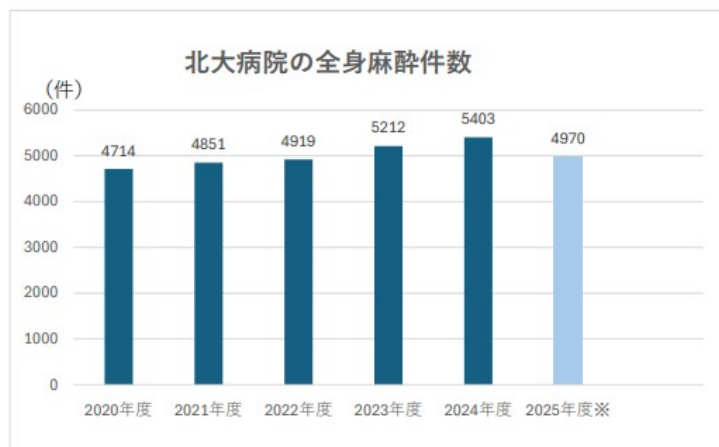
私は2025年4月に病院長に就任した際、病院のブランディング向上に向けて「がん診療、医科・歯科連携、移植医療」の3つの柱の強化を掲げました。今改定で、これらの分野の多くが評価され、「3本の柱」にとって追い風となる、大変ありがたい内容だと受け止めております。

2025年度補正予算に続き、2026年度診療報酬改定でも急性期医療に手厚い配分がなされ、特定機能病院の入院料などが引き上げられました。特に勤務環境が厳しく、医師不足が懸念される診療科の医師への手当が要件となる「地域医療体制確保加算2」や「外科医療確保特別加算」の新設は、素晴らしい政策であり、この加算が新設された以上は、北大病院として絶対に取りにいかねばいけません（Vol.1の記事を参照）。

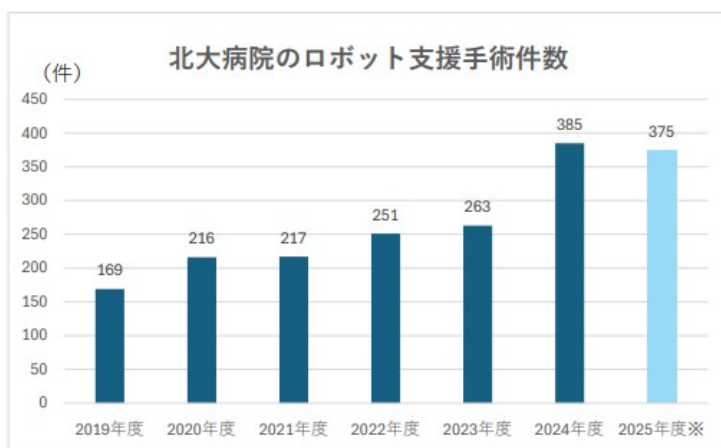
さらにロボット支援手術への加算である「内視鏡手術用支援機器加算」（年間200例以上である場合、1万5000点加算）や、「臓器移植実施体制確保加算」（点数は4倍）の新設も大きな意味を持ちます。

当院にはダビンチが2台あり、ロボット支援手術の実績は2024年度385件、2025年度は1月までに375件です。臓器移植は年10～11件程度（腎移植および角膜移植を加えると2025年度実績65件）。最近、肺移植実施施設の認定を受けたので、2026年度中に1例目を実施できる可能性があります。

ロボット支援手術はコストの割に診療報酬点数が通常の手術と変わらない術式が多かったこと、移植医療は実施する度に赤字になっていたので、この加算は本当にありがたいです。その他、DPC係数も上がるなど、大学病院への評価が高い改定内容です。



(2025年度は2026年1月までの実績)



(2025年度は2026年1月までの実績)

——2026年度改定でどの程度、増収につながるのでしょうか。

北大病院の医業収益は、2025年度で400億円弱という規模です。今回の2026年度改定により、入院料を中心に年間10億円から11億円程度の増収が見込まれる見通しです。

もっとも、決して楽観視はできず、いまだ経営が厳しい状況にあることに変わりはありません。

2026年度改定で増収も、機器更新はいまだ厳しく

——直近の経営状況では、2023年度と2024年度の2カ年、経常収益は赤字となっています。

当院は、建物の借入金返済が完了しているにもかかわらず、経営は非常に厳しい状況です。人件費や委託費が高騰する中、「ない袖は振れず」であり、耐用年数を過ぎた医療機器も限界まで使用し続けているのが実情です。各診療科からの要望に対しても、生命維持装置など故障が即座に命に直結する機器を除き、優先順位を定めて最小限の購入にとどめています。

建物の老朽化も深刻で、トイレの漏水をはじめとする施設設備の故障が相次いでいます。2025年夏には血管造影室のエアコンが故障し、長時間の検査や処置を延期せざるを得ない事態にも陥りました。

2026年度改定による増収で大幅な赤字は回避できると考えていますが、医療機器の更新を円滑に進められるほどの経営改善は見込めません。

電子カルテを含むシステム関連費用も大きな負担となっています。現在は年間8億円を要しており、2027年度の更新後には年間約10億円を超える見込みです。大まかな計算ですが、これを入院患者数（病床稼働率90%）で割り戻すと、患者一人につき1日当たり3600円かかっていることになります。

しかも、北大では、コロナ禍前から病院の再開発の検討に着手していますが、経営状況が悪く、計画を立てては変更するという繰り返しです。その間に建築費が高騰を続けており、コロナ禍前には約600億円規模での新築を想定していたのですが、今その規模で建てようとする1000億円程度かかると言われています。

高度先進医療を担う病院は他にも存在しますが、医師養成を担っているのは大学病院のみです。教育・診療・研究を担う大学に対しては、診療報酬上の配慮だけでなく、運営費交付金による手厚い支援が不可欠です。

北海道全体の医療の将来も見据えて尽力

——2026年度は、改定への対応や「3本柱」の強化を中心に取り組んでいく。

その通りですが、それに加えて札幌医療圏、さらには北海道全体の医療の在り方を考えることも重要です。地域医療を支えるのも北大の重要な役割だからです。

これは当院の新築問題にも関係することですが、当院の病床規模は札幌医療圏全体の医療の在り方を踏まえて検討する必要があります。いったん建物を建てると30、40年は使用するため、医療需要に対して大きすぎれば余計な経費がかかってしまう。一方、小さすぎれば、市民が必要な医療を受けられなくなる。将来の人口動態や疾病推移を見据えて、行政、大学病院、医師会など関係者が集まり、どのように機能分化と集約化を進めるか、その中で各病院がどの程度の病床規模を持つかなど、中長期的な協議を行うことが不可欠です。

また、北海道は医師不足で苦労している地域も多いですが、各市町村や各病院の都合のみを優先する医師派遣には限界があります。札幌や旭川といった医師充足地域と、それ以外の医師不足地域を明確に区分し、北海道全体での最適な医師配置を検討することが必要です。国の方針を踏まえ、道は2026年度に医師確保計画を見直し、2027年度から実行する予定と聞いています。

今こそ将来を見据えた議論を本格化させるべきであり、私自身も地域医療構想調整会議等へ積極的に関与していきます。

並行して北大自体でも、道の医療を支えるため、遠隔診療への取り組みも強化していく方針です。北海道は広大であり、札幌のように大都市もあれば、へき地や離島がある。冬期は積雪により交通が遮断されます。遠隔医療を積極的に活用しなければ、2040年を乗り切れないと思います。既に釧路の病院との間で、手術支援ロボットを用いた遠隔手術の実証試験を行ったほか、最近では稚内の病院と「D to P with D」で、呼吸器内科専門医が遠隔診療する研究を開始しました。北海道を医師不足等に悩む全国各地のモデルにしていきたいと考えています。

【北大病院・外科医へ直接手当、新加算のモデル目指す】（2026年3月4日に取材）

Vol.1 外科医の処遇改善「新加算」、北大病院が算定へ

Vol.2 2026年度改定で年間11億円増収見通し、南須原・北大病院長

Vol.3 外科医個人へのインセンティブ「画期的」、武富・北大教授

前の記事

次の記事

< 01 外科医の処遇改善「新加算」、北大病院が算定へ
◆Vol.1

03 外科医個人へのインセンティブ「画期的」、武富・
北大教授 ◆Vol.3 >

コメント m3ラウンジ 

2026年度改定で年間11億円増収見通し、南須原・北大病院長◆Vol.2

□5 ◀128 ◎301

コメントの続きを見る

北大病院・外科医へ直接手当、新加算のモデル目指す 連載記事一覧

- | | | |
|-----|---|---|
| 最新回 | | |
| 03 | 外科医個人へのインセンティブ「画期的」、武富・北大教授◆Vol.3
3月25日 |  |
| 02 | 2026年度改定で年間11億円増収見通し、南須原・北大病院長◆Vol.2
表示中のページ 3月18日 |  |
| 01 | 外科医の処遇改善「新加算」、北大病院が算定へ◆Vol.1
3月11日 |  |

記事検索

ニュース・医療維新を検索



